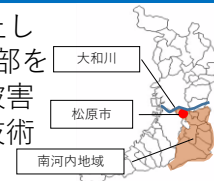


事業の背景・目的

クビアカツヤカミキリは、大阪府内で平成27年に初確認されて以降大阪南東部にあたる南河内地域で被害が拡大し、現在被害地域が北上している状況である。松原市では令和2年に侵入が確認され、本市南部を中心に河川や幹線道路沿いで被害が発生している。しかし、本市北部を流れる大和川より北側地域では、被害の発生は少なく、本市の被害も侵入初期の状態であることから、現在本市はクビアカツヤカミキリ被害の北側前線にあたると思われるため、本市が行う防除対策は大和川以北への被害拡大防止に繋がる。また、クビアカツヤカミキリの防除技術の発展において意義があるものである。



事業の内容

令和4年度事業

事業① 被害状況の追跡調査

概要：被害程度を把握し、対策効果の検証を行う。検証結果を近隣自治体及び市民と共有する。

結果：一定の効果を確認できたので、検証結果を資料整理し、情報共有を行った。

事業② 防除対策事業

概要：被害木及び周辺の未被害木に対する薬剤注入。

結果：一定の効果を確認できた。残効期間が長い薬剤も使用しているので、今後も経過観察を継続していく。



事業③ 情報発信及び普及啓発
概要：前年度から引き続いて情報発信を継続し、対応の実践例を共有し、防除技術の向上を図る。

結果：問い合わせ件数の増加より認知度が上がっていると実感した。また、幅広く活用できるよう実践例について情報共有を行った。



得られた成果

薬剤注入した処理木では薬剤注入後フラスの発生が減少しており、現在でも一定の効果は出ているとのこと。また、クビアカツヤカミキリの幼虫が樹木内に2年間潜伏し、その間樹木の幹や枝を食べる成長する特性から、新しく寄生した幼虫は必然的に薬剤の摂取量も多くなり、今後現状より薬剤の効果が上がることが期待できる。

情報発信及び普及啓発活動については、年々問い合わせ件数が増加し認知度が向上しているため、今後も継続して行っていく。